

# タイトル

author 1

author 2

2024 年 9 月 1 日

## Abstract

ここに概要を記述します. 概要を記述しない場合は, " "の中に何も記述しなければ良いです. このときは, Abstract の文字も自動的に消えます. 日付の表示を消したい場合には, date:"off"などと記述すれば, 消えます. 同様にして, 目次の on, off も, tableofcontents によって行うことができます.

---

## 目次

1 セクション名 .....	2
1.1 サブセクション .....	2
2 add_style 環境 .....	3
2.1 定義環境 .....	3
2.2 定理環境 .....	3
2.3 証明環境 .....	4
参考文献 .....	4

# 1 セクション名

セクションを記述するには、`=`を使用します。

```
1  == セクション名
```

細かいセクションにするには、

```
1  === サブセクション名
```

とすれば、深い階層のセクションを作成できます。

また、次のように `$` マークを用いることで、数式を記述することもできます。

```
1  $ y = sin(x) $
```

上の数式は、

$$y = \sin(x) \tag{1.1}$$

のように表示されます。このように、ディスプレイ数式を用いる場合には `$` マーク間の数式にスペースを入れる必要があります。文章中に表示させたい場合は、

```
1  $y = sin(x)$
```

のようにスペースを削除すれば、 $y = \sin(x)$  のようにできます。

## 1.1 サブセクション

深い階層に行ったとき、番号付けは自動的に行われます。また、画像は図 1.1 のように参照することができ、画像の記述は、

```
1  #figure(  
2    image("figure/water.jpg", width: 50%),  
3    caption: [figure title],  
4  ) <water>
```

のようにすれば、



図 1.1 figure title

と表示できます。同様に、table についても

```
1 #figure(  
2   table(  
3     columns: 4,  
4     [t], [1], [2], [3],  
5     [y], [0.3s], [0.4s], [0.8s],  
6   ),  
7   caption: [Timing results],  
8 )
```

のように記述すれば、

t	1	2	3
y	0.3s	0.4s	0.8s

表 1.1 Timing results

となります。

また、参考文献は、bibtex を使用できます。この場合、キー「tsukahara2023」に対し、

```
1 #cite(<tsukahara2023>)
```

と記述すれば、参考文献[1]を参照できます。

## 2 add\_style 環境

add\_style 環境では、上記の基本的な機能に加えて、様々な拡張機能を提供します。

### 2.1 定義環境

定義環境は、次のように記述します。

```
1 #teigi("定義名", "内容")
```

これによって、次のように表示されます。

定義 2.1 定義名
内容

### 2.2 定理環境

定理環境も、定義と同様に記述します。

```
1 #teiri("定理名", "内容")
```

これによって、次のように表示されます。

定理 2.1 定理名
内容

## 2.3 証明環境

証明環境は、次のように記述します。

```
1 #shoumei[  
2   証明内容  
3 ]
```

これによって、次のように表示されます。

証明 .....

証明内容

.....

## 参考文献

- [1] 塚原隆裕, 「私の「ながれを学ぶ」使命感」, ながれ : 日本流体力学会誌, vol. 42, no. 3, p. 222–223, 2023, [Online]. 入手先: <https://www.nagare.or.jp/publication/nagare/archive/2023/3.html>